

## 令和3年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

<b>【日 時】</b> 令和3年4月27日（火） 18時30分 ～ 19時30分
<b>【場 所】</b> 恩田ふれあいセンター
<b>【出席者】</b> ○篠崎市長 ○地区代表者（5名） 恩田地域づくり協議会会長 : 真宅 宣昭 恩田地域活動会会長 : 石川 悦子 恩田地域づくり協議会副会長 : 大谷 定弘 恩田地区自治会連合会会長 : 竹光 俊晴 恩田地区子ども会育成連絡協議会 : 谷村 忍 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課 秘書課）
<b>【概 要】</b> 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
<b>【意見交換・懇談】</b>
<b>○地域ボランティアの課題について</b> <b>【地域づくり協議会会長】</b> ・地域ボランティアが高齢化しており、20年近く同じメンバーで構成されている団体がある。活動内容が重なる団体もあり、構成員が重複し、若い人の参加が少なく活動が先細りになっている。市が作った団体もあることから、市主導で、地域活動全体を見直し、団体の数など精査したらどうか。 ・地域ボランティアの役割を引き受けることが「損」と思う人が多い。地域活動を見直し、地域ボランティアの負担を減らし、多くの人に参加しやすいようにしていく必要がある。 ・ふれあいセンターが老朽化しているうえ、狭く、駐車場が離れた場所にある。高齢者には負担となっている。
<b>【地域活動会会長】</b> ・スマホ世代ではホームページ等を通じた申し込みが多い。子ども教室の申し込みをホームページから行えるようにしたら申込者数が増加した。必要な情報が手軽にキャッチできる取り組みが必要だと思う。地域活動の情報は紙媒体がメインだと思うが、

様々な媒体で届ける必要がある。また、ネットでの申し込みの受付の場合は、対面での受付と同じように対応することが大切だと思う。

#### 【市長】

- ・自治会活動が「やらされ感」ではなく「やりがい」となるには、「ちょっと参加してみよう」と思うきっかけづくりが必要。参加しやすい環境作りのために、「地域活動の日」を設定して、企業にも協力してもらおう仕組みをつくりたいと考えている。具体的には、積極的に地域活動に参加する社員がいる企業を優遇する制度などの検討である。地域活動を応援するしくみを地域計画等に入れていきたい。
- ・「地域活動に参加したいが何をやっているのかわからない」という人が多い。「マチマチ」等のSNSを活用した情報発信が必要だと思う。地域活動の情報に触れてもらう機会を増やしたい。
- ・ふれあいセンターについては、公共施設等個別施設計画で方向性を検討したい。

### ○子育てに関する問題について

#### 【地域活動会会長】

- ・恩田地区は子ども教室など子育てに関する地域活動が盛ん。活動するにあたって人材不足という感覚はない。子育て中の母親、若い世代と接することが多いが、社会に貢献したい、何か役に立ちたいと思っている人が多い。
- ・市が進める方向性が明確で、良いものであれば、皆が協働して進めていくことができると思う。新しい世代、子育て世代へのお金がまわせるよう考えていただきたい。
- ・仲間でNPO法人を立ち上げて4月から学童保育の運営を行なっている。力を合わせて地域の子どもたちを育てていこうという考えは皆一緒である。
- ・子どもたちに良質な放課後を提供することが地域の課題である。今後も利用者が増えることも考えられる。学校とも連携をとって環境整備に努めている。

#### 【市長】

- ・学童保育の利用者は市内で増加傾向にある。学童保育の施設については、学校の教室の解放や民間施設の借り上げなどを検討し、子どもたちに負担をかけないように整えていきたい。

### ○安心安全に暮らせるまちづくり

#### ○スポーツを通じたまちづくり

#### 【地域づくり協議会副会長】

- ・恩田校区は災害の心配も少なく、公園、国道、空港等も充実し、社会インフラ・交通インフラも整い、住みやすい地区と感じている。
- ・民生委員として高齢者が増えているのを実感している。独居のお年寄りを見守るために必要なことは、お年寄りの方に隣近所とのつきあいを大切にしてもらうことだと感じ、お年寄りに呼びかけを行っている。地域で高齢者の安全を確保できるよう取り組んでいる。

・市と地域が一体となって、高齢者にも子どもにも安心安全な地域をつくっていききたい。

**【地域づくり協議会会長】**

・サッカーやラグビーなどができる芝生のグラウンドを整備したらよいのでは。スポーツを通じたまちづくりにおいて必要である。財源の問題もあるだろうが、陸上競技場を芝生化して、大会開催を誘致できるような取り組みを進めてはどうだろうか。恩田地区の住民も利用させてもらえれば、ますますスポーツで盛り上がると思う。

**【市長】**

- ・子育て世代には、遊具があつて駐車場も整備された公園を希望する声が多い。県に要望した結果、空港公園に大型遊具を設置する方向で検討が始まった。駐車場も整備する。防災教育や環境教育、また、大人が利用できる健康遊具なども整備したい。子育て世代の相談機能も持たせたいと考えている。
- ・レノファなどのプロスポーツを生かしたまちづくりをすすめていきたい。スポーツは青少年教育、健康づくりにもつながる。スポーツを通して共生社会の実現もできる。
- ・恩田運動公園では、恩田スポーツパーク構想を練っている。屋根付きのグラウンドを整備するなどスポーツの拠点となるよう整備していく予定である。芝生グラウンドについては財源の問題があるが、検討していく必要があると思っている。

**○人口減少化対策について**

**【自治会連合会会長】**

- ・人口減少対策としては移住者を増やしていくことが大切と思う。恩田運動公園には大会等で県内外から多くの人がかかる。公園周辺の道路の花壇を整備するなど美化活動に取り組み、美しい市のイメージを持ってもらうのが良いのではないかと。月に1回清掃の日を設けるなどしてはどうか。
- ・老人クラブでアンケートを行ったが、6～7割の高齢者が地域に貢献したいと思っていた。美しいまちづくりに高齢者の力を活用したらどうか。高齢者が出かける場、活動する場を地域で作っていくことは有効だと思う。

**【市長】**

- ・新型コロナウイルスの影響で地方への移住希望者が増えている。テレワーク等により地方でも仕事が可能になった。ライフワークの変化は、宇部市の移住施策には大きなチャンスととらえている。
- ・ときわ公園周辺にオフィスビルが欲しいという問い合わせが増えている。自然に囲まれた環境でクリエイティブな仕事ができる。ときわ公園の新たな可能性を追求し、新しい取り組みをしていく。
- ・市民の皆様が自発的に取組まれている花いっぱい運動については、引き続き進めていきたい。
- ・コストの面から過度に花で飾ることはしないが、国の「歩きたくなる街構想」を中心市街地ですすめていきたい。花・緑・彫刻を活かしながら活性化をすすめていきたい。

## ○空き家問題について

### 【自治会連合会副会長】

- ・地域で困っていることの一つに空き家問題がある。より強制力のある取組みが必要なのではないか。

### 【市長】

- ・空き家対策では、空き家が出ないようにすることが重要と考えている。空き家になってすぐのメンテナンス可能な物件や、空き家になりそうな家の情報を集め、移住定住施策等に活用したい。
- ・強制撤去については財産権の問題があるが、法改正の状況も踏まえながら適切に対処していく。

## ○子ども会について

### 【子ども会育成連絡協議会会長他】

- ・子ども会の加入率が減少している。令和3年度は初めて100人を切っており、歯止めをかける必要がある。地域や保護者に興味を持ってもらえるよう、活動内容の見直しが必要である。

### 【自治会連合会会長】

- ・ドッチビーが子どもたちに人気がある。ドッチビーの活動をより盛んにすることで、子ども会への参加に繋げていくことはできないだろうか。

### 【市長】

- ・子は子ども会に入りたいのに、親の負担が大きいことが理由で入れない状況がある。子ども会のあり方を考え、入りやすい子ども会にしていけないといけない。今後の地域計画や総合計画を策定する際にしっかりと検討していく必要がある。
- ・子ども会活動がきっかけで、他の地域活動への参加につながることもある。子ども会の役員が減ることは、将来の自治会の担い手が減ることでもある。
- ・人気の高いドッジビーで子ども会、まちづくりを盛り上げることができるのではないか。

## ○アフターコロナのイベント開催について

### 【地域づくり協議会副会長】

- ・コロナ禍で地域のイベントを中止した状態が続いている。収束後にイベントを開催したときに参加してくれる人がいるのか、不安である。

### 【市長】

- ・活動を再開されるときは、市からも必要な情報を提供するなど支援していきたい。

### 【市長】

- ・たくさんの提言をいただき、情報を共有できた。

- ・ 今日いただいた提言は市の計画に活かしていきたい。
- ・ 皆さんの意見をしっかり聴きながら、宇部市のまちづくりを目指していく。